

日本の国土横断軸を支える 利根川・信濃川・阿賀野川 ～川と人との共生に向けて～

新潟大学名誉教授・NPO法人新潟水辺の会 顧問
おおくま たかし

講師 **大熊 孝**

2016年
6/4 土

開演15:00 (開場14:30)

会場：東京経済大学 国分寺キャンパス 2号館B301教室

参加費：無料 ※事前申込制

申込方法：裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。
また、本学ウェブサイトからも申し込めます。
(電話での申込は受け付けておりません)

申込締切：2016年5月31日(火) ※ただし、定員に達し次第、申込受付は締め切らせていただきます。

定員：先着400名 ※申込順に予約券を発送いたします。

主催：東京経済大学・大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会

【国分寺駅からのアクセス】



大熊 孝氏 (おおくま たかし) 新潟大学名誉教授・NPO法人新潟水辺の会 顧問

講師プロフィール

新潟大学名誉教授、新潟市潟環境研究所所長、水の駅・ビュー福島潟名誉館長、NPO法人新潟水辺の会・顧問

1942年生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、新潟大学工学部助手、講師、助教授、教授を経て、2008年定年退職、同年名誉教授。1987年「新潟の水辺を考える会」代表になり、現在、NPO法人新潟水辺の会顧問となる。2014年4月から新潟市潟環境研究所所長を務める。

専門は河川工学・土木史

自然と人の関係、川と人の関係を地域住民の立場を尊重しながら研究している。

著書に、「利根川治水の変遷と水害」(東大出版会、1981)、「洪水と治水の河川史」(平凡社、1988、文庫本化2007)、「川がつくった川・人がつくった川」(ポプラ社、1995)、「技術にも自治がある—治水技術の伝統と近代—」(農文協、2004)、「社会的共通資本としての川」(東大出版会、2010、編著)などがある。



利根川、信濃川、阿賀野川は本州の中央部を横断し、その流域面積の合計は36,450km²となり、日本の国土面積の約9.6%を占める。江戸時代以来、この3川を中心とした舟運が発達し、地域の生活を支えるとともに、日本の経済を支えてきた。明治以降は水力発電開発を通して中央集権的に利用され、日本の高度成長を支えてきたが、地域にとっての川の恵みは失われ、治水の進展の中で川の自然が失われてしまった。再び、地域にとっての川のあり方がどうあればいいのか考える。

下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵便でお送りください。
本学ウェブサイトからも申し込めます。(※電話では受け付けておりません)

お申込先

東京経済大学 広報課 FAX: 042-328-7768

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34 ウェブサイト: <http://www.tku.ac.jp/>

申込締切: 2016年5月31日(火) 必着

おおくま たかし

大熊 孝氏 講演会申込用紙

0604

住所 〒 都 道 市 区
府 県 町 村

フリガナ 氏名 電話番号

参加人数 申込者ご本人を含めて参加を希望される人数 名 (うち学生・生徒・児童) FAX 番号

区分

該当する区分を
○で囲んでください

大倉正会員・賛助会員

本学・他学学生 / 生徒 / 児童

本学・他学教職員

本学卒業生

市民・その他

ご一緒に、多摩の文化を、いきいきと。

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会の加入案内の希望
どちらかを○で囲んでください

加入案内を希望する

加入案内を希望しない

★今後、企画イベントの案内送付を希望される方はチェック✓を入れて下さい。→